

イスラエルというのは 1 つの国ということで、イスラエルの国籍を持っている人をイスラエル人というわけですね。

でも、このシリーズの中では〈ユダヤ・イスラエル・ヘブライ〉、同じ意味に使いたいと思います。

さて、ユダヤ人の一番最初の人、ユダヤ人の先祖の中の先祖はアブラハムでしたね。

アブラハムの孫にヤコブがいます。ヤコブから 12 人の息子が生まれて、それがイスラエル 12 部族ということですね。

神は、なぜ人類の中からユダヤ民族を切り分けて選んだんだろうか？

なぜアブラハムの一族を選んだんだろうか？

それは、ユダヤ民族を通して、ユダヤ人以外の全ての民族を祝福するためです。

ユダヤ人という器を通し、パイプを通して、ユダヤ人以外の全ての民族、ユダヤ人を含めて全ての人類が背負っている呪いを解決するためなんですね。

どのようにして解決するかというと、ユダヤ人アブラハムが解決するんじゃないんです。

アブラハムから出て来る、ユダヤ民族から出て来る特定のある子孫が、人類の呪いを全て解決するために、神によって遣わされるんだというわけですね。

神によって人類救済のために遣わされた方こそは、ヘブライ語でメシア、ギリシア語ではクリストス（キリスト）と言うのです。キリストとは称号なんですね。“救い主”という意味です。

ところで、その救い主はユダヤ民族から起きるんだ、出て来るんだと言うのですが、アブラハムは 4000 年前の人物ですから、その子孫といっても膨大ですよ。

この人物こそがメシアなのだとして特定することが出来ません。

そこで、誰が見てもこの方がメシアなのだとして特定できるように、神は様々な条件を付けたんです。

その条件について事細かに 前もって書かれている予告書、これが旧約聖書です。

私たちが外国に行く時、絶対に持って行かなければならないものがあります。

それ持ってなかったら、そもそも出国も入国も出来ませんという決定的なものがあるんですね。

それはパスポートです。パスポートは国際的に通用する全世界共通の身分証明書と言うことが出来ると思います。

私はいつも 10 年物を使うんですけど、パスポートは私が私であることを証明してくれる書類なんですよ。そこには住所・氏名・生年月日・性別・国籍・発行年月日だけではなく、写真が付いています。パスポートに印刷されている写真は、ブラックライトを当てると、写真の中にまた写真が浮き上がるようになってるんです。偽造を防ぐために、あの手この手と色んな細工が仕掛けられてるんですね。

そして、今のパスポートは IC パスポートと言われていて、IC の金色のチップが埋め込まれています。

あのチップの中には、皆様の生体認証の情報が入ってるんです。

例えば、アメリカに行きます時、入国するためには前もって ESTA/エスタという渡航証明を出す必要があるんですけど、それだけではなくて、入国の時に指紋採られます。

どの指採られますか？ 10 本とも全部ですよ。10 本の指全部 指紋採られるんです。

それだけではなくて、虹彩（こうさい）/アイリス/目玉の虹彩の映像を撮られるんです。
そして、パスポートの情報と生体の情報が一致するかどうかを確認するんですね。

なぜそんなことをするのかというと、偽造パスポートが横行しているからです。
偽物のパスポートを使って易々と入って来られたら、またテロ攻撃を受けるかもしれませんね。
そこで、この人物がパスポートで言われている通りの人物かどうかを厳密に確認するためには、この人物の情報の条件の数が多ければ多いほどいいんです。

私の名前は高原剛一郎というんですけど、私は人生の中で同姓同名の人と出会ったことが、まだ1回もないんですね。こういう苗字と名前の人はいないだろうと思っておりましたら、ある方が調べて、静岡県にタカハラ ゴウイチロウさんという人がいるそうです。いや～、そんな人がいるのかと驚いたんですけど、名前だけの情報だったら、たまたま偶然、同じ名前の人がいるわけですよ。条件1つだけなら、その人を特定することが出来ないんです。でも、その人と私の血液型が違ってる・生年月日が違ってる・住所も違ってる。色んな条件が増えれば増えるほど、たまたま名前が同じなだけ、記号が同じなだけで別人格だ・別人だということが分かるんですね。

つまり、ある人を特定するためには、特定する条件の数が多ければ多いほど精密になるのです。正確になるのです。だから、今のパスポートはICパスポートで、住所・氏名だけじゃなく、身体の、その人以外が持っていない特徴をデータの資料として埋め込んであるんですね。

これは、メシア・キリスト預言についても同じことが言えるんです。旧約聖書にはメシアに関する条件・預言が300以上あります。例えば、どこで生まれるのか・どのような名前を付けられるのか・どのような生き方をするのか・どんな殺され方をするのか様々様々な情報、前もってこの人物はこのような人物だと特定する条件が300以上あるんですね。それらの条件の全部に当てはまっている人物は、歴史上1人しかいません。それがイエス・キリストという方なんです。この方については後でもう1度話します。

とにかく、旧約聖書はキリストがお越しになる以前に書かれた聖書で、それは、メシアが来るならこういう人物なんだというIDカードということです。このID条件に合致している人物がメシアです。

ID条件に合致しない人はメシアなんかじゃない。今世界中に自称メシアや自称キリストが溢れ返っていますが、彼らは旧約聖書の預言と全く何の関係もない、本当にどこの馬の骨とも分からない自称メシアのペテン師です。そんなんに騙されないようにしてくださいね。

ところで、アブラハムの子孫ユダヤ人から出ると旧約聖書にあったのですが、その条件の中に、時代と共にドンドンより詳細な条件が加わっていきます。今日は、その大きな1つの条件をご紹介しますと思います。それは『ダビデ契約』と言われているものです。

ダビデという人物はユダヤ民族の王様です。アブラハムから1000年後に登場した人物です。非常に名君で神を恐れ、また、旧約聖書のいくつかは彼が書きました。この信仰深い王様ダビデに、神はダビデ契約という新しい契約を与えます。

旧約聖書の歴代誌第一 17章 11～14節 (*聖書 新改訳 2017)

11. あなたの日数(ひかず)が満ち、あなたが先祖のもとに行くとき、わたしはあなたの息子の中から、あなたの後(あと)に世継ぎの子を起こし、彼の王国を確立させる。
12. 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしは彼の王座をとこしえまでも堅く立てる。
13. わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。わたしの恵みを、わたしはあなたより前にいた者から取り去ったが、彼からはそのように取り去ることはしない。
14. わたしは、わたしの家とわたしの王国の中に、彼をとこしえまでも立たせる。
彼の王座はとこしえまでも堅く立つ。

ここでわたしと名乗っているのは神です。そして、あなたと呼びかけられているのはダビデです。神はダビデに契約を与えましたが、その内容を大きく言いますと3つです。

- 1) あなたが死んだ後、息子の中から王が出る。あなたの子孫として王となるのは男性です。
 - 2) その息子の王国をとこしえまでも堅く立てる。一時的ではなくて永遠に続く王朝です。永遠に続く特別な王朝を立てる。
 - 3) わたしは、わたしの家とわたしの王国の中に、彼をとこしえまでも立たせる。
- ダビデの子孫が立てる王国・王座は、わたしのすなわち神の王座・神の国・神の御国なのだ。

これがメシア王国のことなんです。神はユダヤ民族の中からメシアを送ります。ユダヤ民族といってもたくさんいるけど、その中のダビデの子孫から、王位に就くメシア(救い主)を送ります。そのメシアがメシア王国を造った時、メシア王国が登場した時、全世界は完全な祝福を受けることができるのだという預言です。

ダビデの子孫は、今やキリスト・メシアの代名詞になっています。特別な称号になってるんです。オートバイの王様でハーレーダビッドソンありますね。ダビッドソン。ダビデの息子ですよ。1つの称号というかタイトルになっているんです。

ところで、王国が成立するためには3つの条件が必要です。国ということ考えた時、どうしてもなくてはならないもの。

第1に領土です。領土の無い国なんて国って言いませんよね。領土あつての国です。

なぜ領土侵犯されないように頑張るんでしょうか？ 国とは領土だからです。

第2は領土の上に国民がいるということです。領土はあるけど人間ゼロ。

これでは国とは言わないですよ。ただの空き地じゃないですか。

領土があつて国民がいて、その国民が王様無しの政府を持っている場合、それは共和国と言います。領土と国民が独立している政府を持った時、共和国という独立国家になりますが、王国とは呼ばれません。王国とは、国民の上に統治する王様が登場した時、初めて王国と言うことができるのです。キングダムです。ねー。

王国は3つのものが揃った時に初めて成立するんです。

まず領土があること。その領土に国民が住んでいること。そして、国民の上に王が君臨することです。王が来た時に、国民がその王を王として迎え入れるということなんです。

これをユダヤ民族に当てはめて考えてみましょう。

今から約 2000 年前、ユダヤ人たちは約束の地、今パレスチナと呼ばれている所に住んでいました。領土の所に、曲がりなりにも独立国ということで彼らは住んでいた。約束の地にユダヤ人がいる。領土と国民がいるわけですね。そこに王となるべき方が来られた。それがイエス・キリストです。

もしユダヤ人たちがイエス・キリストを受け入れていたならば、この時点 - 今から 2000 年前の時点で、メシア王国が実現していたということです。

そして、世界中に祝福が広がっていたはずなのですが、残念なるかな、当時のユダヤ人 特に指導者たちは「イエスはメシアではない。イエスは創造主/イスラエルの神が遣わした救い主なんかではない。イエスはベルゼブルである。」

ベルゼブルとはサタン/悪魔のことです。「イエスは悪魔である」と悪魔呼ばわりしたわけですね。イエスが奇跡を起こしたことは誰も否定できなかつたんですが、それは神の力・聖霊の力ではなくて悪魔の力でやってるんだと拒絶し、最終的にはローマに売り渡して、イエス・キリストは十字架に付けられて殺されてしまうのです。

旧約聖書でたくさんの預言を持っていながら、なぜユダヤ人たちはメシアなるイエス・キリストを拒んでしまったのでしょうか？ その理由については、また次回お話ししたいと思います。

いずれにしても約 2000 年前、ダビデの子/アブラハムの子孫として、イエス・キリストがこの世界に来てくださった。そのメシアの誕生・登場を記念するお祭りがクリスマスなんですね。

どうぞ皆様、クリスマスのシーズンに入りましたけど、このことの意味を思い巡らしながらお過ごしになられると、本当に幸いではないかなと思います。

では、また続きをお話しいたしましょう。それまで皆さん、さよなら!!